第10回世界水フォーラムの様子（バンドン精神水サミット）

WWC副総裁と談話する金尾理事長

天皇陛下によるビデオ基調講演

第10回世界水フォーラム～国際社会でも水資源機構の存在感を発揮～

●第10回世界水フォーラムとは

世界各国の政府、国際機関、学識者、企業及びNGOにより包括的な水のシンクタンクとして設立された「世界水会議（WWC）」は、3年に1回「世界水フォーラム（WWF）」を開催しています。

令和6年（2024年）5月にインドネシア共和国のバリにおいてWWCとインドネシア政府の共催により「第10回世界水フォーラム」が開催されました。今回のWWFでは、「繁栄を共有するための水」をテーマに、ハイレベルパネル、政治プロセス、テーマ別プロセス及び地域プロセスなど278のセッションが開催されたほか、254の展示等があり、延べ64，000人が来場しました。今回のWWFは9年ぶりにアジアで開催されるとあって、多くの日本の関係者が参加しました。

ハイレベルパネルの一つとして開催された「バンドン精神水サミット」では、天皇陛下によるビデオ基調講演が披露され、講演資料の中では水と災害の課題への対応の例示として、令和6年能登半島地震時の水資源機構の給水支援活動の写真が紹介されました。

●水資源機構の参画

第10回世界水フォーラムでは、水資源機構からも金尾理事長が招待され、WWC副総裁のほか、インドネシア水公社2総裁など各国要人、アジア開発銀行総裁・副総裁をはじめとする国際機関の幹部との会談を行いました。

また、水資源機構は水災害に対するインフラ整備の重要性をテーマとした「気候変動に対する水インフラの強靱性向上」セッションを主催し、ダムの運用改善やダム再生事業など気候変動への適応と緩和の両面で役立たせるための実務的な施策について世界の実務者・研究者と議論を深めました。

さらに、実務レベルでの情報交換等を通じて機構が有する経験や技術を発信したほか、展示会場において水資源機構事業を紹介する動画が放映されるなど、水資源機構の存在を国際社会に示しました。

●アジアにおける統合水資源管理の推進

アジア河川流域機関ネットワーク（NARBO）は、アジアモンスーン地域における統合水資源管理の推進を図るために河川流域機関のお互いの経験と情報交換を通じた能力向上を図るために水資源機構が中心となって、2004年に設立した国際的なネットワークです。設立から20年を迎えWWFの機会を利用して第7回総会を開催し、インドネシアをはじめ、フィリピン、ミャンマーなど多くの加盟機関が参加しました。総会での議論に先立つ基調講演において、金尾理事長は水資源機構が蓄積してきた経験と技術を事業紹介を通じて共有するとともに、経験や科学技術に基づく対策などが実務的な社会実装につながるようNARBO内での連携の強化が必要であることを述べました。

水資源機構は「水のプロ集団」として、気候変動など地球規模の水問題の解決に向けて国際社会の中で引き続き貢献してまいります。

日本パビリオン

水資源機構主催セッション

金尾理事長とNARBO議長